

平成20年度 博士後期課程学位論文要旨

学位論文題名（注：学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること）

良質な非構成的評価結果を持つ教材の作成

学位の種類： 博士（作業療法学）

人間健康科学研究科 博士後期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学 系

学修番号：06996603

氏名：京極 真

（指導教員名：山田 孝）

注：1,000字程度（欧文の場合300ワード程度）で、本様式1枚（A4版）に収めること

本研究の目的は、非構成的評価（unstructured assessments, 以下UA）の確かさを担保するとされる4条件（①第3者が評価者の想定した暗黙の前提を共有しやすい、②提示された事実は面接や観察から得られたもので、作業遂行を通して変化が認められる、③事実の表記は省略が少なく、概念が明確である、④判断は作業有能性に焦点を当てており、論理的に適正で明瞭である）を満たすよう作成したUA結果は確かさの担保されたUA結果であると判断されるという仮説を検討することであった。

方法は、3段階からなるコンセンサスメソッドを用いた。第一段階では、4条件に精通する者を対象に、臨床の作業療法士が行ったUA結果を基に、4条件を全て満たす11のUA結果（以下、「同意できる」11項目）、4条件のうち1条件満たさない10のUA結果（以下、「判断に迷う」10項目）、4条件のうち2条件満たさない10のUA結果（以下、「同意できない」10項目）を作成した。第二段階では、4条件に精通する者を対象に、第一段階で作成した計31のUA結果が意図された通りになっているかどうかを検討した。第三段階では、4条件に精通していない者を対象に、「同意できる」11項目のみが確かさに「同意できる」で一致率70%に達するかどうかを検討した。

結果、第一段階、第二段階、第三段階の全対象者は、4条件を全て満たしたUA結果を確かさの担保されたUA結果であると判断することが明らかとなった。一方、4条件のうち1条件でも欠けると、これらの対象者は、確かさが担保されたUA結果ではないと判断した。他方、経験年数別では、新人群が一部の項目で一致率が70%に達しなかったが、全体としては確かさの担保されたUA結果と判断できる水準であった。このことから、本研究の結果は、全体としてみると、UA結果が4条件を全て満たせば、確かさの担保されたUA結果であると判断されるという仮説を支持するものだったと考えられた。

また、本研究の結果は、良質なUA結果を学ぶ教材として利用できる。具体的には、学習者はまず、本研究で作成した31のUA結果を読み、その中から確かさに「同意できる」11項目とそうでない項目を選別する。選別した結果の判定は、第三段階の結果を基準にして、学習者が確かさに「同意できる」11項目を適切に選択していれば正しく解答できたと判断し、そうでなければ正しく解答できなかったと判断する。学習者が4条件を全て満たすUA結果を書けるようになりたい場合、①評価者の視点を一貫させ、②事実は省略せず具体的に書き、③UAで捉えた作業遂行上の変化を明記し、④事実に根ざしながら作業ができるようになったかどうかを判断した、ことがわかるように書くよう指導するとよいと考えられた。